

子どもがつく嘘との向き合い方

白百合女子大学発達心理学科 春日 文



かすが あや

白百合女子大学人間総合学部発達心理学科 助教

臨床心理士・公認心理師。小学校・中学校・高等学校でスクールカウンセラーとして勤務していました。現在は、歌いかけ等の母子のやりとりを通して育まれる子どもの発達の研究をしています。

子どもは、小学校高学年から中学生になるにつれて、両親への依存が減り、反抗が強くなっていくといわれています。また、この時期は親子のコミュニケーションにも変化がみられ、子どもは親と過ごす時間が減り、友人との関係に多くの時間を費やすようになる。今回は、この時期に多くみられる「嘘をつく」ことに関して、一緒に考えてみましょう。

子どもはどのようにして嘘をつくのでしょうか。表情研究で有名なポール・エクマン博士が書いた「子どもはなぜ嘘をつくのか」（河出書房新社）には、嘘をつくことに関して、エクマン博士の息子自身が執筆した内容が含まれており、14歳の彼は次のような事を書いていきます。

「子どもが親にたくさん嘘をつく理由は、子どもの健全な養育を願う親たちが常に子どもをコントロールしているからです。子どもは自分がトラブルに巻き込まれそうなことをはばくし隠します。親からの罰や説教を避けるのが目的だと思います。それに、プライバシーを守りたい時に嘘をつきます。自分だけの秘密にしておきたいこと

がいくつかあるのです。たとえば、ばつが悪いと思っていること、単に親に知られたくないこと、異性のことなどです。」

自分がこの時期の子どもだった頃のことを思い出してみよう。だれもがこのような嘘をついた経験があると思います。

親は、子どもに何が起きているのかわかるために日頃から子どもに色々な質問、例えば、「学校で何があったの?」「あったことを尋ねますが、学校で悲しいことがあったとしても、何も「や」へつ」「としか答えてくれないことが多いのではないのでしょうか。思春期の子どもは、心も体も急激に発達することに伴い、親に対する態度も変化します。また、嘘をつくという概念の理解や嘘をつく能力なども変わるため、嘘のつきかたも子どもの発達につれて変化していきます。この時期になると、子どもは親の干渉や統制を嫌がるようになり、そのため嘘をつくことが多くなります。このような子どもの変化に対して親自身も対応を柔軟に変えていく必要が生じてきます。

また、親は子どもについて、ある程度の情報を知る必要がありますが、どの程度知る必要があるかは、子どもの年齢や親の考え方によって違うのだと思います。嘘には色々な種類があります。思春期にみられる嘘は、親に心配をかけたリ怒られたりするのを避けるための嘘や、恥ずかしいことを隠すための嘘などがあげられますが、嘘には許して良い嘘と見過ごしてはいけない嘘があります。許して良い嘘ならさっさとしておき、もし打ち明けてくれたら「話してくれてありがとう」と伝えてみて下さい。話をして良かったと子どもが感じられるように接することが大切です。

一方、最も見過ごしてはいけない嘘は、自分の心や体を傷つけてしまうような危険な行動につながる嘘や、いじめや暴力など他人の権利を侵す行動につながる嘘です。子どもがこのような嘘をつかないようにするため、「子どもは」と言いつつこのような嘘をついてはいけないのか」について予め話し合っておくことも大切なことです。

子どもが嘘をついていることに気づいた時、

「た時、真実を知ろうとすると嘘を暴くことを注ぐのではなく、嘘の背景にある子どもの気持ちに意識を向けることが重要です。問い詰めるのではなく、「困っていることがあったら相談してね。」などと、声をかけてみましょう。「関係ないだろ。」「うるさいな。」と言われるかもしれないが、同時に子どもの心には気にかけてくれているという安心感が芽生えるのではないかと思います。日頃から、「あなたの事を大切に想っている」というメッセージを、態度や声かけを通して子どもに届けるようにしたいですね。

